
さらさら

Yuna

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さらさら

【Nコード】

N5922Z

【作者名】

Yuna

【あらすじ】

この作品はフィクションです。
同性愛表現含みます。

隣で、見ていられたら、いいとか、ぬるいんだけどね。じゃあほかにどうしろって、いうの。かぜにそよがれる髪とか、綺麗な肌とか、華奢な指先とか、見れば、女の子だけどき、気になっちゃうでしょ。さらさらした気持ちだけじゃ、君を、見てられないの。

ふわふわ

君を壊したくなる。たまに。

その綺麗で細く柔らかな髪を食みたい。

小さなお鼻に、白い頬に、噛みつきたい、愛したい。

純粹なのか混じりけがあるのか定かでないけれど、君が私を魅了するからいけないのは確かなことで、君にその気がないこともまた明らかで。

惜しげもなく笑いかけてくる、その嬉しさに霞がかかる。素直に喜ぶことを非難するように、それでいいんだ、と思う。

踏み入れないんだ。その先に光は一筋も差していない、広げた世界はどうに失っていた。

君をどうにかしてしまったら、引き返せないゆきどまりへと歩を進めるだけ。

だからそつと前髪を撫でてあげる。

ゆるゆる

カーテンが、風でふくらんだ。

くるまっていた佐和ちゃんが顔を出す。

「で、どうなの、ぶっちゃけ」

どうなの、って。

なにが。

問いかけながら彼女のつかむうすいブルーの布をゆすつてやると、うわあ、やめろく、と声をあげて、その中へとさらに潜り込んだ。

「平岡くんだよ、ゆまちいの、ダーリン様だよ」

ぽかぽかしていーよ、こんなか。ゆまちいも入りなさい…、と、もごもご催促されて、ちよっとお邪魔してみる。背中が、直射日光、あつい……。

「ゆまちいって呼び方、全然、気に入ってないんだけど」
やっぱ出る、私はひらりと外界に舞い戻った。

「あ、行っちゃった…。そんなのは、知らないよ、ねえ…、ダーリンとどこまでした」

しれっと言う佐和ちゃんの隠れ蓑を横目にみながら、「どこまでだと思う」と質問を投げる。

え、しらなーい。

「ねえ佐和ちゃん」

なあに。くぐもった声が布越しに返事する。

手を着くクリーム色の壁が、ヒヤリと冷たい。

「まだ私、だめみたい」

小さな声で、申し訳ないような気持ちで、私は言う。

「うん、そう」

そとが、騒がしいよ。男子は元気にサッカー、かな。

「ねえ、だから、おいで、カーテンの中」

「まだ、愛してるって、言えてない」

「うん、…おいで」

「佐和ちゃんとは、入れない」

そう、さみしいね。

佐和ちゃんが続けた。

ごめんね。

私はカーテン越しに頭を撫でた。

「ちがうよ、ゆまちい」

あのね。佐和ちゃんが、青をゆらゆら波打たせた向こうで、

「いちばん、寂しいのは、平岡くん」

そう言ったきりになった。

昼休み中、私を招き入れようとはしないで、ずっと、じっと、うすい布の内側で押し黙る。

誰なんだろう、

いちばん寂しいのは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5922z/>

さらさら

2011年12月19日22時05分発行